

日本の共通試験と 大学入試センターの役割

独立行政法人大学入試センター 副所長(試験・研究統括官) 大塚 雄作

(「大学入試サミット2017」 - 平成29年3月26日 - の講演より)

センター試験は"大学"の試験

皆様こんにちは。本日は中間団体という言葉も入っておりまして、現状の日本における大学と国の間にある団体の代表として、大学入試センターが選ばれたのではないかと思います。橋田室長の講演にもありましたが、今、とにかく新テストに向けての改革が進められているところであり、その時、中間団体がどうなるかは、まだよく分からない部分もあります。一応、答申等の最終報告などには、センター試験、および大学入試センターが何らかの形で関わると書かれております。全く担当しないということはないと思いますので、改めて今の大学入試センター試験において、大学入試センターがどういう役割を果たしているのかということを報告させていただきます。

センター試験はすでに30年ぐらい続いてきていますが、センター試験の前はご存じの通り、11年間、共通1次試験という試験が行われていました。このように試験というのは名前も変わってくるし、形態も変わっていきます。今度は、今のところはまだ仮称ですが、大学入学希望者学力評価テスト(大学入学共通テスト)というようになっております。このように名称が変わってくるわけですが、それらの日本の共通試験について、それを実施する中間機関と

しての組織の役割を考えてみたいと思っています。

最初に宣伝ですけれども、東北大学の高等教育ライブラリから、『大学入試における共通試験』という書籍が出版されています。共通試験について、ある意味でかなりいろいろな立場から論文が並べられている書籍です。ぜひご参照いただければと思います。私も大学入試センターの実際と、その課題についてまとめておりますので、そちらもご参考いただければと思っております。

では、まずセンター試験について説明します。私は前任、京都大学におりまして、センター試験の監督などをかり出されてやっていたわけですが、その時には全くそういう意識はなかったという反省のもとに、ある事実をを強調させていただきます。

その事実とは、センター試験というのは「大学」 の試験であるということです。ここが日本の共通試 験、大学入試センターが担当してきた試験の一番 大きな特徴であると思うのです。センター試験は、 「大学」の試験です。

「独立行政法人大学入試センター法」という法律 にセンター試験の定義が書かれています。『大学に 入学を志願する者に対し、大学が』と、「大学」が 主語になっています。『共同して実施することとす る試験である』ということで、要するにセンター試 験は、大学入試センターが実施する試験とは書いていないのです。そこが一つのポイントであるということです。大学が実施主体になって行っている試験を、共同で実施しなければならない業務について、大学入試センターがサポートする。そういう位置付けになっているということをご理解いただければと思います。

私が京都大学でセンター試験の監督としてかり出されていた時は、大学入試センターが実施する試験に協力してやってるんだぞという感じで監督をしておりました。なんでこんな面倒くさいことさせるんだと。リスニングの時は、本当に慌てふためいたわけでありますが、実はそういう認識が間違っていたということを、私が3年前に大学入試センターに戻った時に気づきました。センター試験というのは「大学」の試験であるという認識を共有していただくことが、日本におけるこの中間機関では大事なことであると思っている次第です。

センター試験における大学入試センターの役割と 大学の役割

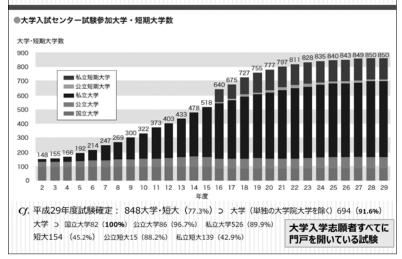
大学入試センターの役割と、各大学の役割につい ては、大学入試センターの要覧にも書かれています し、ホームページなどでも明らかにされています。 大学入試センターは試験問題を作成し、実施マニュ アルを作成しています。毎年、新たなことが起こり ます。それは致し方ないと思うのですが、それに対 応するために、監督要領などは毎回、分厚くなって いきます。監督になる大学の先生方はほとんど読ん でくれないだろうということは分かりながら、厚く なっていくんですね。その他、出願の受付、採点、 集計、成績などの提供をしています。共通一次の最 初はやっていませんでしたが、今は情報開示があり ますので、要求があれば800円で試験成績を本人に 通知します。これは試験が終わった4月15日以降と いうことになっています。このように大学入試セン ターはセンター入試において共通してできる業務を 担当しています。大学の方は、このセンター試験の 会場を貸しているのではなく、大学自らが実施して いるということで、会場提供や監督、それから志願 者への受験案内の配布などを行います。また、各大

学が試験問題作成に携わる問題作成委員を派遣する ということもあります。これが非常に大変でして、 大学入試センターが勝手に作っている問題に、忙し い大学の先生方を出すわけにはいかないと考える大 学もあるようです。ご本人には内諾が取れていて も、上のほうで許可が出ないというケースもあり、 問題作成員を確保するのが大変になっています。大 学が実施する試験ですので、これはぜひ協力してい ただきたいと思います。何も無報酬で来てもらって るわけではなく、問題作成の先生方には謝金を払っ ています。しかし、謝金を受け取ると、これはいわ ゆる兼業になりますから、「休暇を取って行きなさ い」と指示する大学もあるそうです。問題作成員は 大体45日は来てもらわないといけないので、有給 休暇だけでは足りません。「とんでもないけど、休 暇にされたのではとても協力できない」という方も おられますので、そういうところはぜひご理解いた だければありがたく思います。

このようにさまざまな役割分担があります。大学 入試センターは、いわば、大学(センター試験参加 大学)と志願者、その間を媒介するエージェント、 そういう機関と位置付けることができるでしょう。 こういった立ち位置から、大学入試センターが共通 試験を実施することによって、どのようなことがで きるのか。まず、共通一次の時に言われた大きなこ とは、難問、奇問を排除した良質な問題による入学 試験を作っていこうということです。その共通一次 が入ってきたのが1979年だと思いますが、それ以 前は結構、難問、奇問がありました。受験地獄、い わゆる団塊の世代の頃です。四当五落、つまり合格 するためには4時間しか寝れないというような話も あった時代です。難問、奇問の排除は、これはセン ター試験にも引き継がれて、その役割を果たしてい るということだと思います。

それから各大学が実施する試験との適切な役割分担です。これも共通一次の頃から言われていることで、共通テストで基本的なところをしっかり見るので、各大学はそれぞれのアドミッションポリシーに応じて、個別試験を工夫してくださいということです。これはセンター試験でも以前から言われており、これによっているんな工夫をしている大学も増

●センター試験への参加大学数の推移



資料1

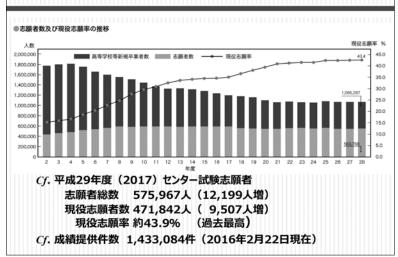
●受験上の配慮を要する受験生への対応

> 諸配慮の例

- 試験問題の点字化
- 14ポイント拡大文字・22ポイント拡大文字(平成28年度より)
- マーク方式によらない文字またはチェックによる解答
- 代筆による解答
- 試験時間の延長
- 補聴器または人工内耳の装用
- 手話通訳者の配置
- リスニングの免除
- 特定試験室の指定
- 介助者の配置 etc. etc.
- 平成29年度実績: 受験上の配慮許可された受験生総数2,594人(視覚障害101人、聴覚障害417人、肢体不自由285人、病弱102人、発達障害249人、その他1,440人)

資料2

●センター試験の規模



資料3

えてきているということです。

また、共通一次の頃は国立大学が中心で、公立大学がそれに参加しておりましたが、センター試験になってからは私立大学にも門戸を広げ、アラカルト方式という、利用する教科・科目は自由に選定してもよいというルールによって、全てに門戸が開かれた試験としての役割を果たしてきているわけです。

こういったようなコンセプトでセンター試験が作られておりますが、では、センター試験というのは、そもそもどういう特徴をもった試験なのかということについて説明をしたいと思います。センター試験は、大規模であり、共通一斉であり、選抜試験であると、こういう3つの特徴をもった試験といえます。

センター試験の規模を表すために、参加大学数が どのぐらいかを見てみます。参加大学数の推移のグ ラフの下の方は大体平行で変わっていません。これ は国立大学と公立大学です。国立大学は統廃合など があって、少し下がっていますが、全ての国立大学 が今でも参加しております。この右肩上がりに増 えているのは私立大学です。私立大学が非常に増 えてきており、さらに2006年ぐらいから短期大学 がアラカルト方式を利用して加わり、今年の1月に 行われた試験では848大学で、77.3%となってい ます。もちろん国立は100%、公立は96.7%とい う、ほとんどの大学が参加している試験になってい ます。大学入学志願者の全てに門戸を開いている試 験という位置付けができると思います。【資料1】

「志願者の全て」と申し上げましたが、センター試験では、受験上の配慮を要する受験生へのさまざまな対応を行っています。皆様が新聞などで目にする試験問題以外に、試験内容を全て点字化した問題を作成したり、拡大文字での問題を作成したり、肢体不自由の方には代筆による解答も別の試験室をつくって対応をしています。試験時間を1.5倍まで延長するようなこともあったり、手話通訳をするなど、いろいろな対応をしていまして、そういった配慮を要する受験生の数は、29年度実績で2,594人でした。これに対して大学入試センターの教職員が涙ぐましい努力をしているということが、現場に入ると実によく分かります。【資料2】

受験生の方に目を向けると、日本は高校卒業者数

がどんどん減ってきていますが、こういう傾向にある中で、センター試験志願者は、実はここのところは50万人を超えてずっと横ばいでいます。その理由は、志願者数及び現役志願率の推移において、現役志願率が上昇しているということですね。今年(平成29年、編集部注、以下同様)は43.9%で、過去最高の受験率になっているということで、増えてきております。【資料3】

増加の理由はいろいろあるのですが、その一つに センター試験未利用者の数があります。およそ57 万人の志願者がいますが、大体その4分の1の受験 生は、実際に大学の出願に使っていない、センター 試験未利用者となっていることは、案外、知られて いないことだと思います。AO入試や推薦入試など で12月ぐらいまでに大学が決定した受験生は、1月 から3月に遊ばないようにといいますか、高校の学 習の総まとめとしてセンター試験を受けなさいとい う指導が高校の先生方からあるようです。最近はこ のような受験生が増えてきているということです。 大学あるいは高校において、いわゆる大学入学前の 学習、学力の担保というのは一つの課題になってき ています。その対処として、センター試験が利用さ れているのであろうと想像しています。

試験場とスタッフの規模については、各大学、本当にご協力いただいて、今年も大きなトラブルはなく、大雪で実際に大変だった地域もたくさんあると思いますが、691試験場、およそ1万試験室で行われております。試験監督・試験会場管理に携わるスタッフは、2日間ずっと続けて担当する場合などもありますので、実人数はこれより少ないと思いますが、延べ16万人です。うち試験監督は約8万人。うち約7万人が大学の先生方に担当していただいています。試験日程は1月の14日、15日で、今年は2日間で全ての科目を行っております。

日本の場合には、病気で本試験のこの2日に受験できなかった受験生に関しては、次の週に追試験を準備して、受験できるようにしています。また試験実施の側のトラブルなどが、時々、起こるわけでして、その場合には再試験と称して、やはり1週間後に同じ試験場で行います。追試験は全国で2カ所程度を定めていますが、大体200名から500名の受験

生が、追・再試験を受けています。いずれにしましてもほとんどの受験生はこの2日間で受験します。「共通一斉」というのはこういうことです。このセンター試験の得点によって、大学の合否が決まっていくということで、選抜試験としてハイステークスの試験として利用されているということになろうか

センター試験の作り方

と思います。

最後にセンター試験の問題作制体制について確認 しておきたいと思います。これは難問、奇問を少な くしていくことや、良質な問題を作成するという、 その質の担保のために大学入試センターの問題作制 体制は「ここまでやるの」というくらいの体制を整 備しています。まず第一委員会と呼ばれる委員会が ありまして、そこで問題が作成されています。これ は科目ごとに6教科20科目に対して委員会がありま す。それにプラスして、特別問題作成部会という、 先ほど紹介した点字などを扱う部会に21委員会が 用意されており、1部会20人平均で、約420名で 構成されています。任期は原則2年で、半数ずつ、 毎年変わっていく形で動かしております。大体1年 に45日程度、委員が問題作成に関わります。もう 2年ぐらい前になりますか、司法試験の問題漏えい などがありました。試験問題のセキュリティーの問 題は非常に重要です。そこで、大学入試センターの セキュリティーがしっかり管理された問題作成棟に 集まって、問題を作成していただくことにしており ます。本試験と追・再試験の2セットずつの問題作 成。ですから世界史や日本史、地理などはA、Bが ありますから、4つのセットを作っているというこ とです。【資料4】

加えて、10年ごとの学習指導要領の改定の時に、緊急対応用のセット、いわゆる第3セットとわれわれが呼んでいるセットを作成しています。センター試験は50万人規模の受験生を対象にしなければいけませんので、今年の大雪も非常に心配しましたが、インフルエンザの流行や、3.11のような大地震などが、本当に共通テストの時に起こった場合を想定して、10年に1度作成します。ですから学習指導要領の改定の時には、その10年間対応できる

用意をしているということです。

この問題作成の委員会に対して、問題点検の体制 というのが非常に整えられておりまして、これは第 二委員会と呼んでいます。これは大体、第一委員会 のOBからなる委員会でありまして、解答の一意性 を確認します。センター試験を実施した後に、複数 回答などで「こっちも正解じゃないのか?」といっ た事態になりますと、もうこの問題をなくすとか、 両方正解にするとか、事後的に修正するのは大変な ことですので、そこをしっかり見てもらっていま す。もちろん範囲であるとか、難易度であるとか、 そういうところも見てもらっています。多少、科目 を統合してやってもらっていますが、150名程度の 委員となっています。びっしり意見書に記載され て、本当に科目によっては分厚い意見書が出てきま す。先生方は論文を書いて査読の時にたくさんコメ ントが返ってくる経験もされてると思いますが、問 題作成というのは、それに匹敵するぐらい大変な意 見書が返ってくることもあり、第一委員会の立場に 立つと大変だろうと思います。ただ、こういったセ ンター試験の問題作成を経験しておくと、個別大学 の試験問題作成には非常に役に立ちますので、ぜひ そういうメリットも勘案していただければと思いま す。これからは個別大学の試験も大切ですので、よ ろしくお願いしたいと思います。【資料5】

私が担当している試験・研究統括官は、こうした問題作成の委員会の統括をしています。専門が同じですと、とにかく厳しい評価がありまして、今年の問題はアカデミックな"におい"がしないなどという評価が、第二委員会から第一委員会に伝えられたりします。そこをいかにやんわりと、クッションを付けて第一委員会に伝えるかが、われわれの仕事になります。

その他、高校の教員が委員となる場合は、受験生は高校生が大半ですので、やはり高校の授業をもっていると問題漏えいのきっかけが増えるということで、指導主事や、管理職になっている先生方にお願いして、高校教育の立場からの点検も行っております。この点検に協力していただいている先生を、点検協力者とわれわれは呼んでおります。加えて、科目間の調整や整合性といった点検も行っておりま

●問題作成の体制=第一委員会

□ 教科科目第一委員会(平成29年度試験)

- 「国語」、「地理歴史(世界史、日本史、地理)」、「公民(現代社会、倫理、政治・経済)」、「数学(数学I、数学II、簿記・会計、情報関係基礎)」、「理科(物理、化学、生物、地学)」、「外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語)」6教科 20科目
- +特別問題作成部会(点字、拡大文字等の受験上の配慮を要する受験 生向けの試験問題作成) 21委員会
- » 国公私立大学等の教員および学識経験者約420名 (任期は原則2年で 半数ずつ交代)
- 問題作成は大学入試センターの問題作成棟に限られ、1年に45日程度、 委員が集合して問題作成
- 本試験と追・再試験の2セットずつの問題作成

資料4

●問題点検の体制

教科科目第二委員会

問題の内容、構成、解答の一意性などについて詳細に点検。第一委員会の経験者中心(**OB委員会**)。各委員会4~10名程度、計19委員会、約150名で、年に3回程度(1回は5日程度)点検。

点検結果は<u>意見書に記載</u>され、主要点について、センター統括官・副統括官・調整官が口頭で**意見受領**し、第一委員会に**伝達**。

> 点検協力者

高校教育の立場から、直接高校の授業を担当していない指導主事や管理職教師などにより、問題の難易度および出題範囲の適切性について点検。

教科科目第三委員会

科目横断的に、**科目間の重複や整合性**、**形式や表現、内容の適切性**などについて点検。各科目専門の委員は1~2名程度で、30名弱で構成。

二重・三重の点検体制により 試験問題の質的維持が 図られている

す。こういったことで、試験問題の質的維持が図られているわけです。

今のセンター試験は、マークシートだから誰で もできるような印象あるかもしれません。しかし ながら、私はもっと公表してもいいのではないか と思っていますが、センター試験にも正答率が相 当低い問題はあります。一方で満点をとる人もい ますが、それなりの数の難問はあります。何を隠 そう、今年の国語の第1問は、小林先生(大阪大 学)の科学コミュニケーションの文章が出ており まして、国語の平均点が下がってしまいました。 いや、小林先生の責任では決してありませんの で、ご安心ください。高校の先生からは「国語の 暴力的な字数の多さは何とかならないのか」とい うコメントをいただいております。80分はとて も短く、2、3時間あれば私はいい問題になるか と思うのですが。まだまだ今のセンター試験も課 題は多々ありますが、ただそれを伝えても、うま く機能するかは分かりかねるところであります。

大学入学者選抜改革における大学入試センター の位置付け

これから入試改革が進められていくわけです が、最後に入試改革における大学入試センターの 位置付けを考えてみました。高大接続システム改 革会議の最終報告では、この大学入試センターに おけるさまざまな実施運営の実績を活用しようと いうことが書かれております。その他、本日のテ ーマの中心になると思いますが、個別大学の入学 者選抜をどう支援していくかということも、大学 入試センターの役割として書かれています。例え ば、個別大学の入学者選抜やアドミッション・オ フィス強化等の方法開発があります。多面的、総 合的評価で面接や集団討論などを入れていくとこ ろも増えてくるでしょうから、それらの支援も含 まれます。さらに、調査書の評価等を含む評価に 関する方法をどうすればよいかということもあり ます。それからこれは非常に大きな課題だと思っ ていますが、やはり入試は経験しないとなかなか 分からないところがありますので、入試に関わ る、ある種の専門的な人材の養成が必要になりま す。そういった人材のその育成の方法も1つの課題として書かれています。その他、いろいろな課題がある中で、国内外の調査等という意味では、本日はイギリスのUCASや韓国のKCUEの情報を仕入れることができて、非常にありがたいと思っております。またわれわれも訪問させていただいて、より深い情報をいただければと思っておりますので、これを機にネットワークを広げていければと思っております。【資料6】

皆様方にもぜひ利用していただきたいのは、全国大学入学者選抜研究連絡協議会、われわれは入研協と呼んでおりますが、こちらの年1回の協議会が今年は5月の24日から26日、富山で行われます。そこで発表した内容は『大学入試研究ジャーナル』という形で、あるいは『大学入試研究の動向』というようなものとして、これはホームページに毎回掲載されますので、周りの皆さんにもご案内いただければと思います。こういうところを通じて、入試担当者ネットワークを形成し、深めていく必要があると思っています。入試改革を進めていくためには、行動の指針となる理念の徹底などが非常に重要になりますので、いろいろな新しい情報を共有していきたいと思います。【資料7】

今年の入研協の一つの目玉は、橋田室長の講演 の最後のほうにあった委託事業です。先ほどは関 西学院大学が中心の主体性などの試験の紹介があ りましたが、他にも全部で5つの課題で取り組ん でおり、その情報共有の場としても利用しようとい う計画が進んでいます。今月の31日には、その企画 委員会の委員長である大阪大学の川嶋太津夫先生 にセンターに来ていただき、最後の詰めをするこ とになっておりますが、今後ぜひそのような場も 利用いただければと思います。また、各地の大学 で行っている個別試験も今後いろいろ工夫をされ ていくと思いますが、そういった情報を集約し、 積み重ねていくネットワーク拠点として、中間団 体である大学入試センターの位置付けはますます 大事になっていくと思います。その意味で、大学入試 センターの研究開発部に所属する専門家集団の充 実と活用は、今後、非常に重要な課題であると考 えております。ご清聴ありがとうございました。

◆入試改革におけるセンターの位置づけ

> 共通テスト実施のエージェントとしての役割

新テスト = 「大学入学者選抜として大学が共同実施する性格のテスト」

→ 大学入試センターにおける作問や実施・運営等の実績を活用

> 個別大学の入学者選抜支援の役割

個別大学の入学者選抜やアドミッション・オフィス強化等の方法開発 面接や集団討論等を含むテスト方法開発 調査書の評価等を含む評価に関する方法開発 専門的人材の育成 入学者選抜や学力評価についての新しい方法の開発

国内外の調査等の機能

(高大接続システム改革会議『最終報告』による)

資料6

●大学・センター・文科省の連携に向けて

> 全国大学入学者選抜研究連絡協議会(入研協)

大学入試研究の学会的機能

年1回の協議会

→ 2017年5月24日~26日@富山

『大学入試研究ジャーナル』

『大学入試研究の動向』等の発刊

۰

> 入試担当者のネットワーク形成

入試改革の的確な情報共有

入試改革の動向と成果の実態・追跡調査等の共同

→ センターはネットワーク拠点としての役割を果たすことが肝要か!